

**第347回**  
**株式会社テレビ新潟放送網**  
**放送番組審議会**

- 1** 開催日時 平成**30**年**4**月**23**日(月)午前**11**時**00**分より
- 2** 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3** 委員総数 **8**人 出席委員 **8**人

出席委員

豊口 協	委員長	若杉 隆平	副委員長
山本 健一	委員	中島慎一郎	委員
野内 隆裕	委員	大久保千春	委員
田村 明子	委員	柳川かおり	委員

会社側出席者

取締役会長	室川 治久
代表取締役社長	務台 昭彦
常務取締役 編成担当	竹石 尚史
取締役報道制作局長	永田 広道
編成局長兼番組審議会事務局長	増子 隆
報道制作局制作部長	羽田 朗
報道制作局 合評番組プロデューサー	竹野 和治
事務局	山崎 学 吉田 康宏

## 4 議 題

### 1) 番組合評

「明日への1440

～スノーボードの“求道者”平野歩夢の戦い」

[放送：平成30年3月3日（土）10:00-10:30]

(説明：番組プロデューサー 竹野和治)

### 2) 会社報告

①3月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

②講じた措置、公表など定例報告等 (報告：番組審議会事務局)

### 3) その他

## 5 審議の概要

会社側からは、平昌五輪で銀メダルを獲得したスノーボードハーフパイプの平野歩夢選手を真正面から主人公として取り上げた番組であり、その中で平野選手がどのような人物なのか、スノーボードに対してどのような思いで取り組んでいるのかを、平野選手のあこがれの存在であり、ライバルでもあるショーン・ホワイト選手との五輪での戦いを通じて描こうという意図で番組を制作した、という説明があった。

(委員の意見)

- 文句なく楽しめた番組だった。BGMやナレーションも非常に聞きやすく、心地よく見ることが出来た。
- 平野選手のインタビューのコメントが多くあり、またその一言に重みがあり、番組タイトルの「求道者」の通りだと思った。
- 番組の素材として申し分なく、その素材をよく伝えていた。

- 平野選手の人間性を引き出している取材だと思った。姿形ではなく、平野選手の気持ちがよく表れていたのは取材に対して信頼をしているからだと感じた。
- ラジオや新聞ではなく、テレビだから伝えられた番組だと思った。番組というより作品という感じがした。
- 競技について解説などもあるとよかったのではないか。
- 前編で使用していた映像も多くあり、前編を見た視聴者は「また同じ映像だ」と思ってしまったのではないか。
- メダルを獲った後の平野選手のこれからも番組で描いて欲しかった。
- ライバルの存在と目標が人を成長させてくれるのだと思わせてくれる番組だった。
- 平野選手と同じ世代に物事に真摯に向き合うことの大切さを伝えられたのではないか。
- 美しい番組だった。平野選手に対する制作者の気持ちがストレートに番組から感じられた。
- ショーン・ホワイト選手とのライバル関係が良く描かれており、スノーボードの凄味を改めて感じる事が出来た。
- 村上市の練習施設などが取材されていて、平野選手を身近に感じる事ができた。
- オリンピックの映像と取材した映像がうまい具合に組み合わせて作られていたと思った。
- 制作者が平野選手を母か姉のように温かく見守りながら作ったのだなと感じさせる番組だった。

## 6 会社側の報告

### 1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

3月 …… 166件

### 2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成30年3月26日)から、昨日(平成30年4月22日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

## 7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

### 1) 前回第346回審議会では、「新潟×長野 一番Get! ケンミン生投票～信越ながら…ゴールデンやっちゃいます～」を審議いただきました。

委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

### 2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

## 8 今回の第347回放送番組審議会の公表

### 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

### 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

### 3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

## 9 参考事項(委員への配布資料)

- ・3月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・民間放送新聞(3/23、4/3、4/13号)
- ・BPO報告 NO.185

以上